

「本巢市と私との意外な関係」

～ 福田源七郎、真桑人形浄瑠璃 ～

第 8 期 第 2 回 10 月 13 日 (土)

塾生 No.10 浅野 健

藤原勉本巢市長が「地方行政をとりまく現状と課題」と題して話された。

私は本巢市と縁が非常に深い。私の母は本巢郡（現本巢市）の真正町にて福田家の娘として生を受けた。この福田家は 300～350 年程に元を辿ると、「福田源七郎」（元禄五年歿）という人物に行き着く。この人物こそが本巢市の物部神社にて真桑人形浄瑠璃の題目として、今日まで語り継がれている人物である。

では、今でもこのように多くの人々へ、どのような理由から語り継がれるようになったのか。

かつて、本巢市は 300～350 年程前の元禄時代等には、水害に悩まされたり、水を確保するのが難しい土地であった。そこで起こった全国でも有数の大きな「水争い」に、福田源七郎が終止符を打ったのである。

では、この「水争い」とは何であるかと言うと、本巢市全体では根尾川の水域にあたり、本巢市中心部ではモレラから国立岐阜高等工業専門学校や、仏生寺にかけて、今でこそ、糸貫川が整備された状態で流れているが、元禄の当時には、灌漑用水を確保して、この本巢市周辺で作物を作るのには、周辺の川の流量が非常に少なかった。

そこで、各地域では毎年のように水の奪い合いによる、大きな争いが起きていた。ところが、このまま争いばかりを続けてはいけないと、当時の区割り井組内部の争いを自らの私財を投げうってでも、幕府へ 20 回程も陳情に行ったのが福田源七郎である。

そのおかげで幕府から真桑用水の創設が認められた。

これからも、藤原市長には、私の祖先「福田源七郎」のように、地域の住民のために一生懸命になり、地場産品の柿や梨、まくわり等の販売促進や、住民バス等の地域での交通網の構築等で利便性を確保できるように、また、住民があつと驚くようなアイデアで、本巢市を盛り上げて頑張ってもらいたいと期待している。

平成 30 年 10 月 6 日 (土) 掲載可

参考資料

1. Wikipedia 真桑人形浄瑠璃

<https://ja.wikipedia.org/wiki/真桑人形浄瑠璃>

2. 岐阜県ホームページ [トップ](#) > [教育・文化・スポーツ・青少年](#) > [文化・芸術](#) > [文化財](#) > 真桑人形浄瑠璃

www.pref.gifu.lg.jp/kyoiku/bunka/bunkazai/17768/mukei-minzoku/makuwaninngyou.html

3. 本巢市教育委員会ホームページ 真桑小学校 > キッズページ > 真桑文楽

www.motosu-education.jp/makuwa/kids/bunraku/

— 以上 —